



# いきいきファーマーだより 第84号

平成 28 年 10 月 14 日 益田農業担い手支援センター発行  
益田市ホームページアドレス <http://www.city.masuda.lg.jp/>

## 1. 行事スケジュール

- 1. 行事スケジュール
- 2. お役立ちなんでも情報
- 3. 認定農業者連絡協議会からのお知らせ
- 4. 紹介コーナー  
◇◇雑談コラム◇◇

月 日	イベント名	会場・時間
10月22日	平成28年度島根県種畜共進会	9:00~ 島根中央家畜市場 (松江市宍道町)
10月26日	益田地域認定農業者研修会 in 吉賀	14:00~ 吉賀町ふれあい会館外
10月28日	平成28年度西部地区子牛共進会	9:30~ 西部家畜市場 (益田市遠田町)
11月10,11日	第19回~全国農業担い手サミット in ぎふ	9:30~ 岐阜メモリアルホール外 (岐阜県岐阜市)

## 2. お役立ちなんでも情報 ~各地イベント・情報提供~

**(農) グループまめ・こめ 美味しまね認証を取得!**

(農) グループまめ・こめ は、3戸6人で平成24年9月に立ち上げ、平成27年3月新たに2戸の参加8名で法人化しました。真砂地区における米、大豆、野菜の栽培と味噌の加工・製造・販売を行い、6次産業化を通して、豊かな地域づくりと美しい自然環境を守る集落営農組織として活動しております。

また、真砂地域の活性化と住民の元気づくりや環境保全のため、農薬・化学肥料を使わない栽培に取り組み、島根県が進めるエコファーマーの認証及びエコロジー農産物推奨を受けております。構成員の一人である齋藤



さんのお話では、「有機農業や減農薬の栽培を行うようになって、今まで見なかった田んぼの生きものを見るようになった」と語っております。また、地域農地の荒廃を防ぐために新たな農地の集積を行い、平成27年度には地域の担い手として、法人で認定農業者になりました。

そして、今年8月「安全で美味しい島根の県産品認証取得制度」(通称:美味しまね認証)を米で取得し、安全な農林水産物を生産する取組を消費者に伝え、安心と信頼の確保を図っております。農業生産工程管理(GAP)の手法を導入し、食の安心・安全だけではなく、農場や作業場の管理、作業者の安全を確保しながら無理の無い農業経営を行うこととしています。

「今後は、昼夜の気温差が大きく良質米がとれる真砂地域で、土づくりや減農薬の栽培を行い、出荷先と顔の見える連携によって、生産する米の品質・食味の評価を得ていきたい」という言葉に、地域農業を盛り上げる力強さと、仲間と協力し工夫していく楽しさを感じました。

## 島根シャインマスカット品評会で益田市から1名入賞！

8月4日、平成28年産島根シャインマスカット品評会が開催されました。

益田市からは1房化粧箱の部に3名、5kgダンボールの部に4名が出品し、その中から竹内直実さんが1房化粧箱の部で島根県果樹研究同志会長賞を受賞されました。おめでとうございます。

## 「西条」の干し柿あれこれ

益田市には開発地を中心にカキ園があり、その栽培面積は、古くからの産地である松江、三隅、平田にもひけをとりません。

島根県で栽培されている品種の多くは中国地方のローカル品種である「西条」です。その品質を「カキ品種名鑑」（（社）日本果実種苗協会発行）では、果肉は粘質で柔軟緻密、甘味強く、食味は濃厚で渋抜きをして食べるカキ品種中随一としています。

「西条」に限らずカキは果皮をナイフ等刃物を使って剥かなければならないことから、生柿の消費は年々減少しています。しかし、近年、ドライフルーツの消費が増加傾向なことに加え、東日本大震災により干し柿の大産地であった福島県の生産量（品種は甲州百目）が激減したこともあって、干し柿の市場価格は比較的高値で推移しています。

着色、糊持ちの悪さから「西条」の生柿の販路拡大に苦戦した首都圏、関西圏の市場でも、『「西条」の干し柿は他の干し柿とはひと味違うので、もっともっと出荷して欲しい』との声があがっています。

さて、一口に干し柿と言っても、昔ながらに干し上げて、水分量の少ない「枯露柿」（ころがき）と最近、生産量の増えている半生タイプで水分量の多い「あんぼ柿」に分けられます。西条の「枯露柿」は自然乾燥で1ヶ月程度かけ乾燥させますので、気温が高いとカビが発生し、品質が大きく低下します。そのため、最低気温10℃以下になる11月上旬以降の作業開始が一般的です。一方、西条の「あんぼ柿」は、燃油等の熱源を活用し7日～10日で乾燥させるため10月中旬からの作業開始が可能ですが、効率良く生産するためには、複数の乾燥機が必要になります。

なお、JAしまねでは、出雲、浜田のあんぼ柿加工施設を拡充し、そこに県内各産地の原料柿を集約し、あんぼ柿の増産体制を強化します。



西条の「枯露柿」



西条の「あんぼ柿」

## 「アグリ楽援ぶどうコース」が終了しました

農業サポーター養成講座として開講している「第7期ますだアグリ楽援」では、野菜コースに引き続いてぶどうコースが終了し、4名の卒業生を送り出しました。

ぶどうコースでは、無加温巨峰および雨よけピオーネの園で10回の講義・実習を行い、枝の誘引や房の整形、収穫調製など、ぶどう栽培で重要な作業のポイントを学びました。

今期の卒業生4名が農業サポーターに登録され、活躍されることを期待します。



## 人・農地プラン掲載のご協力について

益田市では人と農地の問題を解決していくことを目的とした、人・農地プランを全地区で作成しました。地区の皆様との話しあいの中で、地域の中心となる農業者の方を推薦していただき、お名前、年齢、経営規模、経営内容などをプランに掲載させていただいております。この度、国の指導によりまして、人・農地プランに掲載する事を改めて承諾いただくこととなり、現在、プランに掲載をお願いしている認定農業者の方には、人・農地プラン意向調査・承諾書・個人情報の取扱確認資料をお送りしているところです。

人・農地プランに掲載されることにより、スーパーL 資金の借入や経営体育成支援事業の実施の要件などメリットもありますので、是非とも掲載にご協力をお願いいたします。

## 3. 認定農業者連絡協議会からのお知らせ

### 平成28年度島根県認定農業者組織ネットワーク総会が益田市で開催されました

県認定農業者組織ネットワーク（会長品川喜代市）の平成28年度総会が、7月28日、益田市において開催されました。当日は各地域の協議会から関係機関等も含め約50名が出席し、来賓として県農業経営課瀬尾調整官、益田市湊副市長、県農業会議三浦会長からご挨拶をいただきました。

会議では、県への要望、30年度からの米政策の大幅な転換に対してどう対処すべきか、市町村の組織化をもっと積極的にすべきであるなど活発な意見が出ました。これを受け、品川会長から計画を立て具体的に実行に移したいとの力強い回答がありました。役員改選は現役員が再任されました。総会終了後は関係機関からの情報提供があり、研修会では（株）社長室井協代表取締役から「儲かる農業経営について」講演を聴きました。交流会は多田温泉に場所を移し会員同士が日頃の活動の情報交換を行い、楽しく交流を深めました。

翌日は（有）アグリみとのベビーリーフ等、岩崎功氏のぶどう、田中農園のイチゴ等を視察しました。来年は、松江市で開催することが決まりました。会員の皆様の参加をよろしくお願いいたします。



## 4. 紹介コーナー

### いきいきファーマーズ ～新規就農者紹介⑤～

名 前	増野 一志
住所及び営農場所	益田市須子町
営農類型	施設野菜・露地野菜 (2014.9月就農)
年 齢	44歳



#### 益田で農業を始めたきっかけは？

一時期、担い手不足のことがテレビや雑誌、新聞などで多く見られる機会があり、そういった情報をいっぱい読んでいたうちに“トマトを自分で作りたい”と思うようになりました。

#### 将来の夢は？

地元根づいた農家として「かすおじふぁーむ」が皆さんが知っている農園になることと、“トマトが果物”になっていることですかね。

#### 趣味は？

魚釣り、テニス、音楽、ドライブ etc・・・いろいろやるのが好きですね。

#### 今後の意気込みを一言！

まだまだ技術的にも知識的にも未熟者ですので、一つ一つしっかりとやっていきます。皆さまでどうぞよろしくお願ひいたします。

トマト



収穫コンテナ



ハウス外観



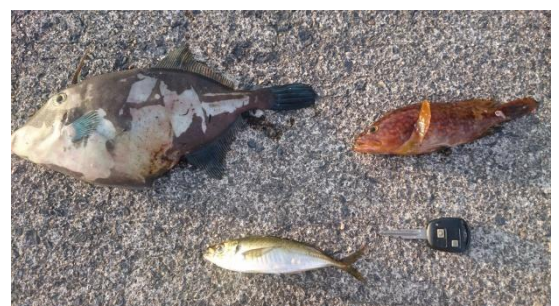
ハウス内部



選果場



増野さんが釣った魚



## ○新たに認定された認定農業者のみなさん

- ・松本 貴之さん（飯田町／施設野菜＋露地野菜）
- ・宮川 純平さん（匹見町匹見／わさび＋施設野菜＋山菜）
- ・株式会社あかね（匹見町匹見／わさび＋タラの芽＋施設野菜／代表取締役 亦賀香織さん）

### 【共同申請】

- ・金山 清さん／千年さん（須子町／施設野菜）

## 生産から販売まで！～合同会社アグリ米ブリッジ（代表 藤井強志）

主に白上町・喜阿弥町にて、水稻を中心に25ha（作業受託を合わせると40ha）を経営する合同会社アグリ米ブリッジは、平成26年に設立された地元密着型の企業です。代表の藤井強志さんは県内でも非常に例の少ない、第三者継承で経営を移譲されたのち会社を設立しました。現在、『島根のつや姫マイスター』に認定されており、島根県の奨励品種である「つや姫」を特別栽培基準（有機肥料使用、減農薬）で栽培する等、高品質なお米作りをされています。

社名である「アグリ米ブリッジ」には、お米を通して生産者から



消費者の皆さんへの架け橋、農業の未来への架け橋を築くという願いが込められています。販売促進

とブランド化のため、オリジナル米袋には、マスコットキャラクター「バイブくん」と「リッジちゃん」を橋渡し役として使用し、一般家庭・市内スーパー等で販売。生産から販売までを一貫して手掛け、生産者の心が見える、安心・安全なお米販売をされています。

藤井さんは、「水稻を中心とした農業経営で企業として維持・発展していくことが、地域貢献に繋がるという信念をもって日々努力をしている。また、それに携わる『人』を大事に『お客さん』も大切にしたい」とお話ししてくださいました。



## ◇◇雑談コラム◇◇

実りの秋、食欲の秋がやってきました。私の場合、今年は夏まで食欲に任せて食べていたせいか4kgくらい太ってしまいました。これではまずいと食事の量を少し減らしたところ、2kgばかり体重が戻ったのですが、あと2kgがなかなか減ってくれません。運動不足と栄養バランスが悪いのが原因でしょう。実りの秋でいろいろな果物やきのこ、魚介類が店頭に並んでいて、食欲が刺激される今日この頃ですが、余分な皮下脂肪をつけないように、食材の知識を深めて健康的な食事を心がけたいと思います。(R. N.)